

消化器内科 Gastroenterology

1. スタッフ構成(2025年3月時点)

- 二宮 朋之(副院長、地域医療キャリア形成支援センター長、経営改革推進本部副本部長、地域医療連携室長、医療秘書管理室長)

1990年愛媛大学医学部卒

専門分野:消化器疾患(特に消化管疾患)

資格:日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本消化器病学会消化器病専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医・消化器内視鏡指導医、日本超音波医学会超音波専門医・超音波指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本消化管学会胃腸科専門医・胃腸科指導医、厚生労働省臨床研修指導医

- 平岡 淳(主任部長)

1998年鹿児島大学医学部卒

専門分野:消化器疾患(特に肝疾患・肝臓)

資格:日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本消化器病学会消化器病専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医、日本肝臓学会肝臓専門医・指導医、日本超音波医学会超音波専門医・超音波指導医、厚生労働省臨床研修指導医

- 壺内 栄治(部長、消化器病センター副センター長)

1996年愛媛大学医学部卒

専門分野:消化器疾患(特に消化管疾患)

資格:日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本消化器病学会消化器病専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医・消化器内視鏡指導医、日本肝臓学会肝臓専門医、日本消化管学会胃腸科専門医・胃腸科指導医、日本ヘリコバクター学会H.Pylori(ピロリ菌)感染症認定医、厚生労働省臨床研修指導医

- 宮田 英樹(部長、内視鏡室長)

1996年札幌医科大学卒

専門分野:消化器疾患(特に胆膵疾患)

資格:日本内科学会認定内科医・指導医、日本消化器病学会消化器病専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医・消化器内視鏡指導医、日本胆道学会指導医、日本膵臓学会指導医、厚生労働省臨床研修指導医

- 多田 藤政(部長)

2003年愛媛大学医学部卒

専門分野:消化器疾患(特に肝疾患・肝臓)

資格:日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本消化器病学会消化器病専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医・消化器内視鏡指導医、日本超音波医学会超音波専門医・超音波指導医、日本肝臓学会肝臓専門医・指導医、日本糖尿病学会糖尿病専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア認定医・指導医、厚生労働省臨床研修指導医

- 黒田 太良(部長)

2007年愛媛大学医学部卒

専門分野:消化器疾患(特に胆膵疾患)

資格:日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本消化器病学会消化器病専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医・消化器内視鏡指導医、日本膵臓学会指導医、日本肝臓学会肝臓専門医、日本胆道学会指導医、日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア認定医・指導医、厚生労働省臨床研修指導医

- 大濱 日出子(部長)

2007年鳥取大学医学部卒

専門分野:消化器疾患(特に肝疾患・肝臓)

資格:日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本消化器病学会消化器病専門医、日本超音波医学会超音波専門医・超音波指導医、日本肝臓学会肝臓専門医・指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、厚生労働省臨床研修指導医

- 川村 智恵(部長)

2008年愛媛大学医学部卒

専門分野:消化器疾患(特に消化管疾患)

資格:日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本消化器病学会消化器病専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医・消化器内視鏡指導医、日本肝臓学会肝臓専門医、厚生労働省臨床研修指導医

- 兼光 梢(部長)

2010年大分大学医学部卒

専門分野:消化器疾患(特に胆膵疾患)

資格:日本内科学会認定内科医、日本消化器病学会消化器病専門医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医、日本肝臓学会肝臓専門医、日本膵臓学会指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、厚生労働省臨床研修指導医

- 北畑 翔吾(医長、IBD センター長)

2012年愛媛大学医学部卒

専門分野:消化器疾患

資格:日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本消化器病学会消化器病専門医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医、日本肝臓学会肝臓専門医、厚生労働省臨床研修指導医

- 泉本 裕文(医長)

2014年福岡大学医学部卒

専門分野:消化器疾患

資格:日本内科学会認定内科医、日本消化器病学会消化器病専門医、日本消化器内視鏡学会上部消化管内視鏡スクリーニング認定医・大腸内視鏡スクリーニング認定医・消化器内視鏡専門医、厚生労働省臨床研修指導医

- 大西 慶(医長、地域医療キャリア形成支援センター勤務)

2014年自治医科大学卒

専門分野:消化器疾患

資格:日本内科学会認定内科医・指導医、日本消化器病学会消化器病専門医、日本消化器内視鏡学会上部消化管内視鏡スクリーニング認定医・大腸内視鏡スクリーニング認定医・消化器内視鏡専門医、日本病院総合診療医学会認定医、厚生労働省臨床研修指導医

- 松岡 順子(非常勤医師)

2006年自治医科大学卒

専門分野:消化器疾患

資格:日本内科学会総合内科専門医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医、日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア認定医

- 加藤 佳夏子(内科専門研修プログラム専攻医)

2020年愛媛大学医学部卒

専門分野:消化器疾患

- 松岡 海南(内科専門研修プログラム専攻医)

2021年愛媛大学医学部卒

専門分野:消化器疾患

- 松田 拓也(内科専門研修プログラム専攻医)

2021年愛媛大学医学部卒

専門分野:消化器疾患

- 村川 和也(専攻医)

2021年山形大学医学部卒

専門分野:消化器疾患

- 中村 綾花(内科専門研修プログラム専攻医)
2022年愛媛大学医学部卒
専門分野:消化器疾患
- 木村 優伽(専攻医)
2022年香川大学医学部卒
専門分野:消化器疾患
- 岩崎 竜一郎(診療委託)
- 寺尾 美紗(診療委託)
- 須賀 義文(診療委託)

2. 実績

■ 疾患別入院患者数

疾患名	患者数
食道癌	86
食道・胃静脈瘤	48
胃潰瘍	28
胃癌	134
胃ポリープ	35
十二指腸潰瘍	11
十二指腸癌	13
十二指腸ポリープ	8
潰瘍性大腸炎	7
クローン病	8
イレウス	49
結腸憩室炎	9
結腸憩室出血	20
大腸ポリープ	55
大腸癌	77
S 状結腸軸捻転	6
肝炎	14
自己免疫性肝炎	1
肝硬変	21
肝癌	148
膵炎	75
自己免疫性膵炎	9
膵癌	133
急性胆嚢炎	23
胆嚢癌	15
急性胆管炎	31
総胆管結石性胆管炎	111
胆管癌	52
総胆管結石	125
その他	364
合計	1,716

■ 主な検査・治療・手術件数

検査・治療・手術名	症例数
上部消化管内視鏡検査	5,217
下部消化管内視鏡検査	2,540
食道静脈瘤硬化術、結紮術	55
内視鏡的止血術(上部消化管)	38
内視鏡的食道拡張術	45
上部消化管異物除去	26
内視鏡的胃瘻造設術	36
内視鏡的大腸ポリープ切除	834
内視鏡的粘膜下層剥離術(食道)	23
内視鏡的粘膜下層剥離術(胃)	128
内視鏡的粘膜下層剥離術(大腸)	69
内視鏡的大腸止血術	67
上部イレウス管挿入	51
大腸イレウス管挿入	4
大腸ステント留置	45
小腸内視鏡	16
カプセル内視鏡	33
超音波内視鏡(上部・下部)	415
ERCP	694
EST	271
内視鏡的截石術	242
内視鏡的胆道ドレナージ	286
管腔内超音波内視鏡検査(IDUS)	47
腹部超音波検査	4,904
腹部造影超音波検査	176
腹腔動脈造影(TAE 除く)	3
肝腫瘍に対する肝動脈塞栓術	98
RFA	52
エコー下肝生検	16
経皮的エコー下肝腫瘍生検	31
肝硬度測定	282
経皮経肝胆道ドレナージ	13
胆嚢ドレナージ	3
肝膿瘍ドレナージ	15
BRTO	20

3. 2025 年度目標

- 医療レベルのさらなる向上

医療レベルをさらに向上させ、愛媛県内のみならず、全国的にもトップレベルの診療ができるように診療のレベルアップを目指します。
- 医療安全の推進

リスクを伴う処置、治療が多いため、各人の医療安全意識の向上に努めるとともに、医療事故の発生確率を低下させるシステムづくりを医療スタッフと共に推進します。
- 医学的エビデンスへの貢献

当院の診療経験で得られた知見をガイドライン作成に貢献できるように学術論文として継続して報告していくことで、自らの医療レベルの継続的振り返りを心がけて日常診療へフィードバックを行います。

4. 学術関係

(1) 学会発表および講演

- 中谷康輔、平岡淳、多田藤政、福本真惟、柳原映美、實藤洋伸、村上大晟、大西慶、泉本裕文、兼光梢、北畑翔吾、川村智恵、黒田太良、宮田英樹、壺内栄治、二宮朋之、中村由子、廣岡昌史、日浅陽一。切除不能肝細胞癌に対するアテゾリズマブ+ベバシズマブ併用療法早期に腫瘍内出血と仮性動脈瘤形成を呈した一例。第29回日本肝がん分子標的治療研究会。さいたま (2024.1.26-27)
- 平岡淳、多田藤政、中谷康輔、二宮朋之、廣岡昌史、日浅陽一。肝細胞癌に対するラジオ波治療で免疫アジュバント治療をすべき症例の臨床像。第29回日本肝がん分子標的治療研究会。さいたま (2024.1.26-27)
- 多田藤政、平岡淳、中谷康輔、柳原映美、實藤洋伸、泉本裕文、北畑翔吾、兼光梢、川村智恵、黒田太良、宮田英樹、壺内栄治、今井祐輔、中村由子、小泉洋平、吉田理、廣岡昌史、二宮朋之、日浅陽一。当院における切除不能肝細胞癌に対する全身薬物療法の変遷。第29回日本肝がん分子標的治療研究会。さいたま (2024.1.26-27)
- 平岡淳。複合免疫療法時代を踏まえた肝細胞癌逐次治療の役割。第29回日本肝がん分子標的治療研究会。さいたま (2024.1.26-27)
- 中谷康輔、平岡淳、多田藤政、松田拓也、松岡海南、柳原映美、實藤洋伸、泉本裕文、兼光梢、北畑翔吾、川村智恵、中村由子、黒田太良、小泉洋平、廣岡昌史、壺内栄治、日浅陽一。Child-Pugh分類Bのミラノクライテリア内HCC症例におけるRFAが肝予備能に与える影響。第2回日本アブレーション研究会。岡山 (2024.2.10)
- 多田藤政、平岡淳、中谷康輔、松岡海南、松田拓也、福本真惟、柳原映美、實藤洋伸、村上大晟、大西慶、泉本裕文、北畑翔吾、兼光梢、川村智恵、黒田太良、宮田英樹、二宮朋之、吉田理、廣岡昌史、日浅陽一。Child-Pugh Bのミラノクライテリア基準内肝細胞癌に対するラジオ波焼灼術の治療成績: Performance status別の検討。第2回日本アブレーション研究会。岡山 (2024.2.10)
- 加藤佳夏子、大濱日出子、平岡淳、多田藤政、福西芳子、柳原映美、加藤雅也、實藤洋伸、泉本裕文、植木秀太郎、吉野武晃、北畑翔吾、川村智恵、黒田太良、須賀義文、宮田英樹、二宮朋之、廣岡昌史、日浅陽一。初回治療でラジオ波焼灼術を施行したミラノクライテリア内肝細胞癌の腫瘍マーカー上昇と予後。第2回日本アブレーション研究会。岡山 (2024.2.10)
- 平岡淳、多田藤政、中谷康輔、福本真惟、二宮朋之、廣岡昌史、日浅陽一。複合免疫療法時代に肝細胞癌に対するラジオ波治療で免疫アジュバント治療をすべき症例とは?。第2回日本アブレーション研究会。岡山 (2024.2.10)
- 畑中健、柿崎暁、平岡淳、多田俊史、狩山和也、谷丈二、厚川正則、豊田秀徳、長沼篤、熊田卓。肝細胞癌に対するアテゾリズマブとベバシズマブ併用療法後のcurative conversionについて: その予測因子と治療成績。第2回日本アブレーション研究会。岡山 (2024.2.10)
- 平岡淳、熊田卓。日本における切除可能肝細胞癌に対する全身薬物療法の現状: 多施設共同研究リアルワールドデータ Real-world clinical practice data of systemic chemotherapies for unresectable hepatocellular carcinoma from Japanese multicenter study group。第21回日本臨床腫瘍学会学術集会。名古屋 (2024.2.22-24)
- Atsushi Hiraoka, Fujimasa Tada, Kosuke Nakatani, Tomoyuki Ninomiya, Masashi Hirooka, Yoichi Hiasa. Clinical features of hepatocellular carcinoma patients treated with radiofrequency ablation, in whom immunoadjuvant therapy should be used. APASL 2024. Kyoto (2024.3.27-31)
- TADA Fujimasa, HIRAOKA Atsushi, NAKATANI Kosuke, HIROOKA Masashi, NINOMIYA Tomoyuki, HIASA Yoichi. Changes in systemic chemotherapy for unresectable HCC and its effect on overall survival. APASL 2024. Kyoto (2024.3.27-31)
- Hideko Ohama, Atsushi Hiraoka, Toshifumi Tada, Masashi Hirooka, Kazuya Kariyama, Ei Itobayashi, Kunihiko Tsuji, Toru Ishikawa, Hidenori Toyoda, Takeshi Hatanaka, Satoru Kakizaki, Atsushi Naganuma, Tomomitsu Matono, Fujimasa Tada, Kazuhiro Nouse, Yoichi Hiasa, Takashi Kumada. Unmet systemic therapy need for Child-Pugh class B patients with unresectable hepatocellular carcinoma. Comparison of atezolizumab plus bevacizumab and lenvatinib. APASL 2024. Kyoto (2024.3.27-31)
- Atsushi Hiraoka. Complications of liver cirrhosis: muscle and nutrition.

- APASL 2024. Kyoto (2024.3.27-31)
- Emi Yanagihara, Atsushi Hiraoka, Takashi Kumada, Toshifumi Tada, Masashi Hirooka, Kazuya Kariyama, Hiasa2Joji Tani2, Masanori Atsu-kawa, Koichi Takaguchi, Ei Itobayashi, Shinya Fukunishi, Kunihiko Tsuji, Toru Ishikawa, Kazuto Tajiri, Hironori Ochi, Satoshi Yasuda, Hidenori Toyoda, Chikara Ogawa, Takashi Nishimura, Takeshi Hatanaka, Satoru Kakizaki, Noritomo Shimada, Kazuhito Kawata, Atsushi Naganuma, Hisashi Kosaka, Tomomitsu Matono, Hidekatsu Kuroda, Yutaka Yata, Hideko Ohama, Fujimasa Tada, Kazuhiro Nouse, Asahiro Morishita, Akemi Tsutsui, Takuya Nagano, Norio Itokawa, Tomomi Okubo, Tacang Arai, Michitaka Imai, Yohei Koizumi, Shinichiro Nakamura, Hiroko Iijima, Masaki Kaibori, Yoichi Hiasa. Prognostic Assessment Using the GNRI in Atezolizumab Plus Bevacizumab Therapy for HCC. APASL 2024. Kyoto (2024.3.27-31)
 - Hironobu Saneto, Atsushi Hiraoka, Hideko Ohama, Toshifumi Tada, Kazuya Kariyama, Koichi Takaguchi, Ei Itobayashi, Kunihiko Tsuji, Toru Ishikawa, Hidenori Toyoda, Takeshi Hatanaka, Satoru Kakizaki, Tomomitsu Matono, Yoichi Hiasa, Takashi Kumada. Clinical impact of direct acting antivirals on prognosis of patients with hepatocellular carcinoma due to hepatitis C virus in Japan. APASL 2024. Kyoto (2024.3.27-31)
 - Hiraoka Atsushi. Medication Adherence of DAA and How It May Affect the Outcome(ランチョンセミナー)。APASL 2024. Kyoto (2024.3.27-31)
 - 平岡淳。ソナゾイド造影超音波検査の有用性。第37回日本腹部造影エコー・ドブラ診断研究会。津 (2024.4.20)
 - 村川和也、平岡淳、多田藤政、兼光梢、黒田太良、宮田英樹、廣岡昌史、二宮朋之、日浅陽一。腹部超音波検査によるカラードブラ検査が診断の契機になった脾動静脈奇形による急性脾炎の1例。第37回日本腹部造影エコー・ドブラ診断研究会。津 (2024.4.20)
 - 多田藤政、平岡淳、廣岡昌史、二宮朋之、日浅陽一。術前に造影超音波を施行した肝偽リンパ腫の2切除例。第37回日本腹部造影エコー・ドブラ診断研究会。津 (2024.4.20)
 - 北畑翔吾、古川慎哉、三宅映己、白石佳奈、丹下和洋、橋本悠、八木専二、二宮朋之、鈴木誠祐、芝田直純、村上英広、大橋勝久、富田英臣、山本安則、竹下英次、池田宜央、日浅陽一。潰瘍性大腸炎患者における社会経済的地位と粘膜治癒との関連。第110回日本消化器病学会総会。徳島 (2024.5.9-11)
 - 中馬誠、杉森慎、日高央、豊田秀徳、平岡淳、多田俊史、厚川正則、森本学、沼田和司、加川建弘。進行肝癌の個別化治療戦略 肝細胞癌に対する複合免疫療法の効果関連バイオマーカーの選定と個別化医療への展望。第110回日本消化器病学会総会。徳島 (2024.5.9-11)
 - 多田俊史、熊田卓、平岡淳、畑中健。切除不能肝細胞癌に対するアテゾリズマブ/ベバシズマブ併用療法例におけるIMbrave 150試験基準外例におけるアウトカムの検討。第110回日本消化器病学会総会。徳島 (2024.5.9-11)
 - 大濱日出子、平岡淳、多田俊史、畑中健、谷丈二、高口浩一、糸林詠、柿崎暁、厚川正則、福西新弥、辻邦彦、田尻和人、越智 裕紀、豊田秀徳、矢田豊、黒田英克、能祖一裕、飯島尋子、日浅陽一、熊田卓。切除不能肝細胞癌に対するAtezolizumab/Bevacizumab療法の予後予測におけるgeriatric nutritional risk indexとCRPを用いたスコアの有用性。第110回日本消化器病学会総会。徳島 (2024.5.9-11)
 - 畑中健、柿崎暁、斉藤直人、平岡淳、狩山和也、多田俊史、豊田秀徳、長沼篤、糸林詠、高口浩一、石川達、川田一仁、的野智光、矢田豊、熊田卓。治療前脾臓体積とその変化は、アテゾリズマブとベバシズマブ併用療法の治療効果に影響を与えるか? [多施設共同研究]。第110回日本消化器病学会総会。徳島 (2024.5.9-11)
 - Fujimasa Tada, Atsushi Hiraoka, Takeshi Hatanaka, Toshifumi Tada, Satoru Kakizaki, Takashi Kumada. ASSESSING ATEZOLIZUMAB PLUS BEVACIZUMAB TREATMENT FOR UNRESECTABLE HEPATOCELLULAR CARCINOMA PATIENTS WITH ESOPHAGEAL-GASTRIC VARICES. DDW 2024. Washington DC (2024.5.19-21)
 - 川村智恵、北畑翔吾、二宮朋之。Bridge to surgery(BTS)225例からみた大腸ステントの治療成績と術前結腸観察の必要性。第107回日本消化器内視鏡学会総会。東京 (2024.5.30-6.1)
 - 黒田太良、宮田英樹、兼光梢。ERCP カニュレーションにおけるパターン認識スコアの有用性。第107回日本消化器内視鏡学会総会。東京 (2024.5.30-6.1)
 - 兼光梢、實藤洋伸、村上大晟、大西慶、泉本裕文、北畑翔吾、川村智恵、黒田太良、多田藤政、平岡淳、壺内栄治、宮田英樹、二宮朋之。長期経過でみる慢性脾炎における脾管ステント留置術の有用性。第107回日本消化器内視鏡学会総会。東京 (2024.5.30-6.1)
 - 多田藤政、平岡淳、松岡海南、松田拓也、福本真惟、泉本裕文、北畑翔吾、兼光梢、川村智恵、宮田英樹、壺内栄治、二宮朋之、廣岡昌史、日

浅陽一. 市中病院における肝癌根治治療の進歩:Child-Pugh A、ミラノ基準内、単発症例における治療法の選択について. 第 132 回日本消化器内視鏡学会四国支部例会. 徳島 (2024.6.8-9)

31. 中村綾花、泉本裕文、木村優伽、福本真惟、松岡海南、松田拓也、村川和也、村上大晟、大西慶、北畑翔吾、兼光梢、川村智恵、松岡順子、黒田太良、多田藤政、宮田英樹、平岡淳、壺内栄治、二宮朋之. Over-The-Scope-Clip にて閉鎖し得た胃瘻抜去後胃皮膚瘻の一例. 第 132 回日本消化器内視鏡学会四国支部例会. 徳島 (2024.6.8-9)
32. 齋藤舞、兼光梢、松田拓也、松岡海南、福本真惟、中谷康輔、柳原映美、實藤洋伸、村上大晟、大西慶、泉本裕文、北畑翔吾、川村智恵、黒田太良、多田藤政、平岡淳、壺内栄治、宮田英樹、二宮朋之. 高度悪性転化を来した solid pseudopapillary neoplasm 一例. 第 132 回日本消化器内視鏡学会四国支部例会. 徳島 (2024.6.8-9)
33. 齋藤舞、兼光梢、松田拓也、松岡海南、福本真惟、中谷康輔、柳原映美、實藤洋伸、村上大晟、大西慶、泉本裕文、北畑翔吾、川村智恵、黒田太良、多田藤政、平岡淳、壺内栄治、宮田英樹、二宮朋之. 高度悪性転化を来した solid pseudopapillary neoplasm の一例. 第 132 回日本消化器内視鏡学会四国支部例会. 徳島 (2024.6.8-9)
34. 多田藤政、平岡淳、中谷康輔、松田拓也、松岡海南、柳原映美、實藤洋伸、泉本裕文、北畑翔吾、兼光梢、川村智恵、中村由子、黒田太良、今井祐輔、小泉洋平、吉田理、廣岡昌史、壺内栄治、日浅陽一. 切除不能肝細胞癌に対する全身薬物療法の変遷と予後改善効果. 第 60 回日本肝臓学会総会. 熊本 (2024.6.13-14)
35. 大濱日出子、平岡淳、多田俊史、海堀昌樹、森下朝洋、黒田英克、糸林詠、厚川正則、畑中健、能祖一裕、柿崎暁、島田紀朋、西川浩樹、的野智光、田尻和人、高口浩一、辻邦彦、豊田秀徳、日浅陽一、熊田卓. 切除不能 HCV 由来肝細胞癌に対する Atezolizumab+Bevacizumab 療法における SVR の功績. 第 60 回日本肝臓学会総会. 熊本 (2024.6.13-14)
36. 柳原映美、平岡淳、多田藤政、松田拓也、松岡海南、福本真惟、中谷康輔、實藤洋伸、泉本裕文、兼光梢、北畑翔吾、川村智恵、黒田太良、小泉洋平、壺内栄治、中村由子、廣岡昌史、日浅陽一. 肝細胞癌に対するラジオ波治療で免疫アジュバント治療をすべき症例の臨床像. 第 60 回日本肝臓学会総会. 熊本 (2024.6.13-14)
37. 大濱日出子、平岡淳、豊田秀徳、狩山和也、辻邦彦、糸林詠、畑中健、柿崎暁、多田藤政、田中一成、能祖一裕、長沼篤、田中弘教、多田俊史、熊田卓. 高齢 HCC 患者の特徴と積極的治療の意義. 第 60 回日本肝臓学会総会. 熊本 (2024.6.13-14)
38. 辻本優梨、熊田卓、多田俊史、平岡淳、谷丈二、厚川正則、高口浩一、糸林詠. 切除不能肝細胞癌に対する全身薬物療法の臨床像:15 年間の変遷. 第 60 回日本肝臓学会総会. 熊本 (2024.6.13-14)
39. 多田藤政、大濱日出子、熊田卓. 胃食道静脈瘤を有する切除不能肝細胞癌患者における Atezolizumab+Bevacizumab 治療の有害事象の検討. 第 60 回日本肝臓学会総会. 熊本 (2024.6.13-14)
40. 原なぎさ、平岡淳、吉治仁志. 本邦における慢性肝疾患患者の減酒指導の実態-AUDIT を用いた多施設共同縦断調査-. 第 60 回日本肝臓学会総会. 熊本 (2024.6.13-14)
41. 兼光梢、平岡淳、松田拓也、松岡海南、福本真惟、中谷康輔、柳原映美、實藤洋伸、村上大晟、大西慶、泉本裕文、北畑翔吾、川村智恵、黒田太良、多田藤政、壺内栄治. 細胆管癌切除症例の検討. 第 60 回日本肝臓学会総会. 熊本 (2024.6.13-14)
42. 大濱日出子、平岡淳、多田俊史、畑中健、谷丈二、小川力、高口浩一、糸林詠、厚川正則、辻邦彦、田尻和人、豊田秀徳、矢田豊、黒田英克、石川達、海堀昌樹、能祖一裕、日浅陽一、工藤正俊、熊田卓. Child-Pugh B 切除不能肝細胞癌に対する Durvalumab+Tremelimumab 療法の初期治療経験. 第 60 回日本肝癌研究会. 姫路 (2024.7.12-13)
43. 多田藤政、平岡淳、福本真惟、松岡海南、松田拓也、泉本裕文、北畑翔吾、兼光梢、川村智恵、黒田太良、宮田英樹、二宮朋之、中村由子、小泉洋平、廣岡昌史、日浅陽一. 背景に線維化を伴わない肝細胞癌(F0 肝癌)の臨床的特徴. 第 60 回日本肝癌研究会. 姫路 (2024.7.12-13)
44. 大濱日出子、平岡淳、海堀昌樹、中村進一郎、谷丈二、糸林詠、能祖一裕、黒田英克、厚川正則、畑中健、西川浩樹、柿崎暁、島田紀朋、筒井朱美、今井径卓、川田一仁、的野智光、福西新弥、日浅陽一、熊田卓. Atezolizumab+Bevacizumab に対する肝予備能・腫瘍マーカー/進行度による予後予測スコア(IMABALI-De score). 第 60 回日本肝癌研究会. 姫路 (2024.7.12-13)
45. 平岡淳. 肝癌治療における肝機能保持・栄養状態維持の重要性. 第 60 回日本肝癌研究会. 姫路 (2024.7.12-13)
46. 平岡淳. 切除不能肝細胞癌に対する免疫複合療法時代におけるリアルワールドデータ(ランチョンセミナー). 第 60 回日本肝癌研究会. 姫路 (2024.7.12-13)
47. 多田藤政、大濱日出子、多田俊史、狩山和也、谷丈二、厚川正則、高口浩一、糸林詠、福西新弥、石川達、田尻和人、豊田秀徳、小川力、畑中

健、柿崎暁、川田一仁、海堀昌樹、飯島尋子、日浅陽一、熊田卓. Atezolizumab+Bevacizumab 治療を受けた胃食道静脈瘤を合併した肝細胞癌患者における有害事象の検討. 第 60 回日本肝癌研究会. 姫路 (2024.7.12-13)

48. 黒田太良. 胆管カニューレションについて深く考える～適切なカニューレション法選択のためのパターン認識スコア～. 第 1 回愛媛胆膵内視鏡フロンティアセミナー with GADELIUS. 松山 (2024.7.18)
49. TAKUYA MATSUDA、ATSUSHI HIRAOKA、FUJIMASA TADA、KANA ATSUOKA、TOMOYUKI NINOMIYA、HIROOKA MASASHI、HIASA YOICHI. Clinical features of patients who should be treated with adjuvant chemotherapy after radiofrequency therapy for hepatocellular carcinoma. APPLE ACADEMY 2024. Hawaii (2024.7.18-20)
50. MATSUOKA Kana、HIRAOKA Atsushi、TADA Fujimasa、MATSUDA Takuya、NINOMIYA Tomoyuki、YOSHIDA Osamu、HIROOKA Masashi、HIASA Yoichi. Development of a Simple Predictive Method without Liver Stiffness for Significant Varices in Patients with Hepatocellular Carcinoma. APPLE ACADEMY 2024. Hawaii (2024.7.18-20)
51. 中村綾花、多田藤政、平岡淳、二宮朋之、日浅陽一. 市中病院における消化器内科入院患者の性差:過去 12 年間の変化. 第 20 回消化器病における性差医学・医療研究会. 大宮 (2024.7.19-20)
52. 平岡淳、多田藤政、二宮朋之、日浅陽一. 高齢化社会における初発肝細胞癌患者の臨床像における性差. 第 20 回消化器病における性差医学・医療研究会. 大宮 (2024.7.19-20)
53. 多田藤政、平岡淳、二宮朋之、日浅陽一. 肝臓内科医の視点からみた市中病院入院患者における肝悪性腫瘍と高齢化の関係. 第 26 回日本高齢消化器病学会総会. 大宮 (2024.7.19-20)
54. 兼光梢、福本真惟、松岡海南、松田拓也、中谷康輔、柳原映美、實藤洋伸、村上大晟、大西慶、泉本裕文、北畑翔吾、川村智恵、黒田太良、多田藤政、平岡淳、壺内栄治、宮田英樹、二宮朋之. 長期経過でみる膵管ステント留置術を要した慢性膵炎患者の検討. 第 55 回日本膵臓学会. 栃木 (2024.7.25-26)
55. 多田藤政、大濱日出子、多田俊史、畑中健、狩山和也、長沼篤、筒井朱美、石川達、小川力、森下朝洋、田尻和人、安田諭、糸林詠、福西新弥、辻邦彦、糸川典夫、黒田英克、小坂久、日浅陽一、熊田卓. 胃食道静脈瘤合併肝細胞癌患者における Atezolizumab+Bevacizumab 治療の有害事象の解析. 第 30 回日本肝がん分子標的治療研究会. 東京 (2024.7.26-27)
56. 平岡淳、工藤正俊、多田俊史、畑中健、大濱日出子、能祖一裕、柿崎暁、高口浩一、石川達、小川力、谷丈二、田尻和人、豊田秀徳、糸林詠、田中一成、厚川正則、黒田英克、海堀昌樹、日浅陽一、熊田卓. 切除不能肝細胞癌に対する全身薬物療法・免疫治療時代の 3 種類の腫瘍マーカー陽性割合. 第 30 回日本肝がん分子標的治療研究会. 東京 (2024.7.26-27)
57. 木村優伽、平岡淳、多田藤政、二宮朋之、日浅陽一. レンパチニブ AE 中止 2 症例から考える全身薬物療法の Drug-off を積極的に検討可能な臨床像. 第 30 回日本肝がん分子標的治療研究会. 東京 (2024.7.26-27)
58. 大濱日出子、平岡淳、多田俊史、畑中健、谷丈二、小川力、高口浩一、糸林詠、厚川正則、辻邦彦、田尻和人、豊田秀徳、矢田豊、黒田英克、石川達、海堀昌樹、能祖一裕、日浅陽一、工藤正俊、熊田卓. Child-Pugh B の切除不能肝癌患者に対する Durvalumab+Tremelimumab 療法/Durvalumab 単独療法初期成績. 第 30 回日本肝がん分子標的治療研究会. 東京 (2024.7.26-27)
59. 多田藤政. 肝臓と筋肉の意外な関係. 令和 6 年度一般社団法人日本肝臓学会「肝がん撲滅運動」市民公開講座「肝臓初耳学～健康寿命を伸ばすには～». 松山 (2024.7.28)
60. Atsushi Hiraoka、Aikata Hiroshi、Michihisa Moriguchi、Masafumi Ikeda、Naoki Morimoto、Kaoru Tsuchiya、Tetsuo Takehara、Hidenari Nagai、Ryotaro Sakamori、Shinichiro Nakamura、Keiji TSUJI、Hidekatsu Kuroda、Masahito Shimizu、Shuichiro Shiina、Takahiro Yamasak、Masatoshi Kudo、Norihito Kokudo、Junji Furuse、Kouji Yamamoto、Tatsuya Yamashita. Association between Skeletal Muscle Mass and Safety and Efficacy of Atezolizumab(Atezo) plus Bevacizumab(Bev) in Japanese Patients(pts) with Unresectable Hepatocellular Carcinoma(uHCC):Results from the ELIXIR Study. ESMO Congress 2024. Barcelona (2024.9.13-17)
61. Atsushi Hiraoka、Fujimasa Tada、Tomoyuki Ninomiya、Masashi Hirooka、Yoichi Hiasa. Influence of gender differences and aging on the clinical background of patients with hepatocellular carcinoma. APASL Oncology 2024. Chiba (2024.9.24-25)
62. Fujimasa Tada、Hideko Ohama、Atsushi Hiraoka、Tomoyuki Ninomoya、Yoshiko Nakamura、Masashi Hirooka、Yoichi Hiasa. Clinical characteristics and prognosis of hepatocellular carcinoma patients without liver fibrosis. APASL Oncology 2024. Chiba (2024.9.24-25)

63. TAKUYA MATSUDA、ATSUSHI HIRAOKA、FUJIMASA TADA、KOSUKE NAKATSANI、TOMOYUKI NINOMIYA、YOSHIKO NAKAMURA、HIROOKA MASASHI、HIASA YOICHI. Clinical feature of hepatocellular carcinoma patients with overall survival(10 years or more). APASL Oncology 2024. Chiba (2024.9.24-25)
64. Ayaka Nakamura, Atsushi Hiraoka, Fujimasa Tada, Yuuka Kimura, Mai Fukumoto, Takuya Matsuda, Kana Matsuoka, Hirofumi Izumoto, Kozue Kanemitsu, Shogo Kitahata, Tomoe Kawamura, Taira Kuroda, Eiji Tsunouchi, Hideki Miyata, Tomoyuki Ninomiya, Yoshiko Nakamura, Masashi Hirooka, Yoichi Hiasa. Influence of RFA on liver reserve function in Child-Pugh B patients with HCC within Milan Criteria. APASL Oncology 2024. Chiba (2024.9.24-25)
65. 多田藤政、平岡淳、二宮朋之. 脾悪性リンパ腫の3例の腹部超音波検査所見. 第13回脾臓研究会. 高知 (2024.9.26)
66. 村川和也、平岡淳、多田藤政、廣岡昌史、日浅陽一. 根治可能な肝予備能良好な初発肝癌患者における門脈圧亢進症の有無からみた課題. 第31回日本門脈圧亢進症学会総会. 高知 (2024.9.26-27)
67. 多田俊史、熊田卓、平岡淳. 肝細胞がん・肝内胆管がん診療の最前線アテゾリズマブ/ベバシズマブ併用療法案における progressive disease 様式は予後に関係するか?. 日本消化器病学会近畿支部第121回例会. 京都 (2024.9.28)
68. 兼光梢、村川和也、黒田太良、宮田英樹、渡邊常太. 高齢遠位胆管癌患者の検討. 第60回日本胆道学会学術集会. 名古屋 (2024.10.10-11)
69. Kazuya Murakawa, Atsushi Hiraoka, Satoru Kakizaki, Takeshi Hatanaka, Toshifumi Tada, Kazuya Kariyama, Joji Tani, Hidenori Toyoda, Masaki Kaibori, Atsushi Naganuma, Yutaka Yata, Hidekatsu Kuroda, Fujimasa Tada, Kazuhiro Nouse, Takashi Kumada. Therapeutic Efficacy and Safety of Atezolizumab Plus Bevacizumab Treatment in 1000 Japanese Patients with Unresectable Hepatocellular Carcinoma: Insights from Real-World Clinical Practice. UEGW 2024. Vienna (2024.10.12-15)
70. Takeshi Hatanaka, Satoru Kakizaki, Atsushi Hiraoka, Toshifumi Tada, Kazuya Kariyama, Joji Tani, Hidenori Toyoda, Masaki Kaibori, Atsushi Naganuma, Yutaka Yata, Hidekatsu Kuroda, Kazuhiro Nouse, Takashi Kumada. Reliable performance of mALBI grade-based risk models for predicting the prognosis of patients with hepatocellular carcinoma receiving atezolizumab plus bevacizumab: Comparative analysis of 13 risk models. UEGW 2024. Vienna (2024.10.12-15)
71. 平岡淳. 経皮的肝生検の実践. School of Hepatology in Matsuyama. 松山 (2024.10.13-14)
72. 黒田太良. 超音波内視鏡下肝生検・穿刺の Tips. School of Hepatology in Matsuyama. 松山 (2024.10.13-14)
73. 多田藤政、木村優伽、中村綾花、松岡海南、松田拓也、福本真惟、平岡淳、二宮朋之. 脾悪性リンパ腫の3例の腹部超音波検査所見. 第34回日本超音波医学会四国支部例会. 東温 (2024.10.19)
74. 木村優伽、川村智恵、村上大晟、大西慶、泉本裕文、北畑翔吾、平岡淳、壺内栄治、二宮朋之. 横行結腸癌の深達度診断に超音波内視鏡検査(EUS)が有用であった1症例. 第34回日本超音波医学会四国支部例会. 東温 (2024.10.19)
75. 村上大晟、黒田太良、平岡淳、宮田英樹、多田藤政、兼光梢、二宮朋之. 超音波診断が有用であった肝十二指腸間膜に発生した形質細胞腫の一例. 第34回日本超音波医学会四国支部例会. 東温 (2024.10.19)
76. 松田拓也、黒田太良、村上大晟、多田藤政、平岡淳、二宮朋之. 超音波内視鏡下肝腫瘍生検で診断し得た転移性肝腫瘍の1例. 第34回日本超音波医学会四国支部例会. 東温 (2024.10.19)
77. 工藤正俊、平岡淳、沼田和司、山下竜也、黒崎雅之、浪崎正、髭修平、伊藤義人、持田智、保坂哲也、芥田憲夫、Lu Yuting, Exposito Maria Jesus Jimenez, Ogata Tatsuya, 池田公史. Nivolumab(N) plus ipilimumab(I) vs lenvatinib(L) or sorafenib(S) as first-line(IL) treatment for Japanese patients(pts) with unresectable hepatocellular carcinoma(uHCC): CheckMate 9DW. 第62回日本癌治療学会学術集会. 福岡 (2024.10.24-26)
78. 多田藤政、平岡淳、福本真惟、松岡海南、松田拓也、泉本裕文、北畑翔吾、兼光梢、川村智恵、黒田太良、壺内栄治、中村由子、廣岡昌史、日浅陽一. 背景に線維化を伴わない肝細胞癌(F0 肝癌)の臨床的特徴. JDDW 2024・第28回日本肝臓学会大会. 神戸 (2024.10.31-11.3)
79. 多田藤政、平岡淳、福本真惟、松岡海南、松田拓也、泉本裕文、北畑翔吾、兼光梢、川村智恵、黒田太良、壺内栄治、中村由子、廣岡昌史、日浅陽一. Child-Pugh B、ミラノ基準内肝細胞癌に対するラジオ波焼灼術の治療成績 Performance status 別の検討. JDDW 2024・第28回日本肝臓学会大会. 神戸 (2024.10.31-11.3)
80. 畑中健、柿崎暁、平岡淳、多田俊史、辻邦彦、狩山和也、豊田秀徳、石川達、糸林詠、多田藤政、能祖一裕、熊田卓. 初発肝細胞癌に対する重粒子線治療と肝切除術の治療成績の比較. JDDW 2024・第28回日本肝臓学会大会. 神戸 (2024.10.31-11.3)
81. 的野智光、平岡淳、多田俊史、狩山和也、谷丈二、厚川正則、高口浩一、石川達、豊田秀徳、小川力、田中一成、西村貴士、畑中健、柿崎暁、川田一仁、黒田英克、矢田豊、海堀昌樹、工藤正俊、熊田卓. 切除不能肝細胞癌に対するデュルバルマブ+トレメリマブ併用療法の初期治療成績. JDDW 2024・第28回日本肝臓学会大会. 神戸 (2024.10.31-11.3)
82. 大濱日出子、平岡淳、多田俊史、畑中健、谷丈二、小川力、高口浩一、糸林詠、厚川正則、辻邦彦、田尻和人、豊田秀徳、矢田豊、黒田英克、石川達、海堀昌樹、能祖一裕、日浅陽一、工藤正俊、熊田卓. 切除不能肝癌への Durvalumab+Tremelimumab 療法の Child-Pugh B 患者での初期成績. JDDW 2024・第28回日本肝臓学会大会. 神戸 (2024.10.31-11.3)
83. 大濱日出子、平岡淳、海堀昌樹、多田俊史、谷丈二、糸林詠、能祖一裕、黒田英克、厚川正則、畑中健、西川浩樹、柿崎暁、島田紀朋、筒井朱美、今井径卓、川田一仁、的野智光、福西新弥、日浅陽一、熊田卓. Atezolizumab+Bevacizumab に対する予後予測スコア (IMABALI-Dscore). JDDW 2024・第28回日本肝臓学会大会. 神戸 (2024.10.31-11.3)
84. 北畑翔吾、福本真惟、松岡海南、松田拓也、村上大晟、大西慶、泉本裕文、兼光梢、川村智恵、松岡順子、黒田太良、多田藤政、宮田英樹、平岡淳、壺内栄治、二宮朋之. 潰瘍性大腸炎患者に対するウバダシニブの早期臨床症状改善効果と24週以降の粘膜治癒成績. JDDW 2024・第28回日本肝臓学会大会. 神戸 (2024.10.31-11.3)
85. 松岡海南、北畑翔吾、福本真惟、松田拓也、村上大晟、大西慶、泉本裕文、兼光梢、川村智恵、松岡順子、黒田太良、多田藤政、宮田英樹、平岡淳、壺内栄治、二宮朋之. 潰瘍性大腸炎患者の鉄欠乏性貧血に対するカルボキシマルトース第二鉄単回投与の治療効果. JDDW 2024・第28回日本肝臓学会大会. 神戸 (2024.10.31-11.3)
86. 松田拓也、北畑翔吾、松岡海南、福本真惟、村上大晟、大西慶、泉本裕文、兼光梢、川村智恵、黒田太良、多田藤政、宮田英樹、平岡淳、壺内栄治、二宮朋之. 悪性腫瘍を原因とした成人腸重積の臨床的特徴. JDDW2024・第28回日本肝臓学会大会. 神戸 (2024.10.31-11.3)
87. 兼光梢、村川和也、實藤洋伸、村上大晟、大西慶、泉本裕文、北畑翔吾、川村智恵、黒田太良、多田藤政、花岡潤、平岡淳、壺内栄治、宮田英樹、渡邊常太、大谷広美、二宮朋之. 当院での膝癌早期診断症例の検討. JDDW 2024・第66回日本消化器病学会大会. 神戸 (2024.10.31-11.3)
88. 北畑翔吾、木村優伽、中村綾花、福本真惟、松岡海南、松田拓也、村川和也、村上大晟、大西慶、泉本裕文、兼光梢、川村智恵、松岡順子、黒田太良、多田藤政、宮田英樹、平岡淳、壺内栄治、二宮朋之. 潰瘍性大腸炎患者の治療薬選択における SDM に Bio/JAK 使用歴が与える影響. 第15回日本炎症性腸疾患学会学術集会. 東京 (2024.11.15-16)
89. Nagisa Hara, Atsushi Hiraoka, Masato Nakai, Makoto Shiraki, Tadashi Namisaki, Hisamitsu Miyaaki, Takuro Hisanaga, Hirokazu Takahashi, Hideko Ohama, Fujimasa Tada, Naoya Sakamoto, Kazuhiko Nakao, Taro Takami, Yuichiro Eguchi, Hitoshi Yoshiji. Clinical effect of harm reduction of chronic liver disease patients with alcohol use disorder by brief intervention in hepatology outpatient unit. AASLD The Liver Meeting 2024. San Francisco (2024.11.15-19)
90. Takeshi Terashima, Masafumi Ikeda, Tatsuya Yamashita, Takuji Okusaka, Hiroshi Imaoka, Satoshi Kobayashi, Sadahisa Ogasawara, Tomokazu Kawakura, Atsushi Hiraoka, Masahito Nakano, Fumio Nagashima, Rie Sugimoto, Michihisa Moriguchi, Yoshitaka Inaba, Satoru Shinoda, Makoto Ueno, Naoya Kato, Masatoshi Kudo, Junji Furuse, Hiroaki Nagano. Phase II study of atezolizumab plus bevacizumab combination therapy in patients with unresectable hepatocellular carcinoma and Child-Pugh B: CHALLENGE trial. AASLD The Liver Meeting 2024. San Francisco (2024.11.15-19)
91. 多田藤政. ウイルス肝炎制御時代の肝臓診療(イブニングセミナー). 第122回日本消化器病学会四国支部例会. 松山 (2024.11.30-12.1)
92. 大濱日出子、多田藤政、平岡淳、中村綾花、村川和也、木村優伽、松田拓也、松岡海南、福本真惟、村上大晟、大西慶、泉本裕文、兼光梢、川村智恵、黒田太良、宮田英樹、壺内栄治、二宮朋之、花岡潤、渡辺常太、大谷広美. ミラノクライテリア内かつ肝予備能・栄養状態良好な若年肝細胞癌患者に対する治療戦略. 第122回日本消化器病学会四国支部例会. 松山 (2024.11.30-12.1)
93. 北畑翔吾、木村優伽、中村綾花、福本真惟、松岡海南、松田拓也、村川和也、村上大晟、大西慶、泉本裕文、兼光梢、川村智恵、松岡順子、黒田太良、多田藤政、宮田英樹、平岡淳、壺内栄治、二宮朋之. IBD 診療スキルアップのためにできること. 第122回日本消化器病学会四国支部例会. 松山 (2024.11.30-12.1)
94. 中村綾花、川村智恵、泉本裕文、北畑翔吾、壺内栄治、平岡淳、二宮朋之. オキサリプラチン誘発性 Evans 症候群を呈した切除不能進行胃癌の1例. 第122回日本消化器病学会四国支部例会. 松山 (2024.11.30-12.1)

12.1)

95. 中村綾花、北畑翔吾、木村優伽、福本真惟、松岡海南、松田拓也、村川和也、村上大晟、大西慶、泉本裕文、兼光梢、川村智恵、松岡順子、黒田太良、多田藤政、宮田英樹、平岡淳、壺内栄治、二宮朋之。潰瘍性大腸炎患者における Nonmedical switch(インフリキシマブからゴリムマブ)の成績と患者意向調査。第 122 回日本消化器病学会四国支部例会。松山 (2024.11.30-12.1)
96. 高山理彩、泉本裕文、木村優伽、福本真惟、松岡海南、松田拓也、村川和也、村上大晟、大西慶、北畑翔吾、兼光梢、川村智恵、松岡順子、黒田太良、多田藤政、宮田英樹、平岡淳、壺内栄治、二宮朋之。ニボルマブ投与中に口腔内・咽頭・食道に広範な潰瘍を生じ、steroid 投与にて軽快が得られた一例。第 133 回日本消化器内視鏡学会四国支部例会。松山 (2024.11.30-12.1)
97. 松岡海南、黒田太良、木村優伽、中村綾花、松田拓也、福本真惟、村川和也、村上大晟、大西慶、泉本裕文、兼光梢、川村智恵、多田藤政、宮田英樹、壺内栄治、花岡潤、平岡淳、二宮朋之。切除可能膝頭部癌のサルベージドレナージに EUS-HGS が有効かつ安全であった 1 例。第 133 回日本消化器内視鏡学会四国支部例会。松山 (2024.11.30-12.1)
98. 村川和也、黒田太良、宮田英樹。当院における急性胆嚢炎ドレナージ法選択の現状と課題。第 133 回日本消化器内視鏡学会四国支部例会。松山 (2024.11.30-12.1)
99. 多田藤政、平岡淳、木村優伽、中村綾花、村川和也、松岡海南、松田拓也、福本真惟、村上大晟、大西慶、泉本裕文、北畑翔吾、兼光梢、川村智恵、黒田太良、宮田英樹、吉田理、廣岡昌史、日浅陽一。90 歳以上の肝細胞癌患者における治療成績。第 45 回日本肝臓学会東部会。仙台 (2024.12.6-7)
100. 木村優伽、平岡淳、多田藤政、大濱日出子、木村優伽、兼光梢、北畑翔吾、黒田太良、川村智恵、廣岡昌史、日浅陽一。レンパチニブ AE 中止 2 症例から考える全身薬物療法の Drug-off を積極的に検討可能な臨床像。第 45 回日本肝臓学会東部会。仙台 (2024.12.6-7)
101. 村川和也、平岡淳、多田藤政、大濱日出子、木村優伽、兼光梢、北畑翔吾、黒田太良、川村智恵、廣岡昌史、日浅陽一。Atezolizumab/Bevacizumab 治療中に腫瘍内動脈瘤形成がみられた切除不能肝細胞癌の 2 症例。第 45 回日本肝臓学会東部会。仙台 (2024.12.6-7)
102. 平岡淳、多田藤政、廣岡昌史、日浅陽一。地方高齢化進行地域における肝細胞癌患者の 25 年間の変化。第 45 回日本肝臓学会東部会。仙台 (2024.12.6-7)
103. 大濱日出子、多田俊史、畑中健、谷文二、石川達、糸林詠、田尻和人、越智裕紀、高口浩一、厚川正則、辻邦彦、矢田豊、黒田英克、豊田秀徳、能祖一裕、海堀昌樹、日浅陽一、工藤正俊、熊田卓。切除不能肝細胞癌に対する Durvalumab+Tremelimumab 療法の予後予測における geriatric nutritional risk index を用いたスコアの有用性。第 45 回日本肝臓学会東部会。仙台 (2024.12.6-7)

(2) 論文・著書

1. Tada T, Kumada T, Hiraoka A, Hirooka M, Kariyama K, Tani J, Atsukawa M, Takaguchi K, Itobayashi E, Fukunishi S, Tsuji K, Ishikawa T, Tajiri K, Ochi H, Yasuda S, Toyoda H, Ogawa C, Nishimura T, Hatanaka T, Kakizaki S, Shimada N, Kawata K, Tada F, Ohama H, Nouse K, Morishita A, Tsutsui A, Nagano T, Itokawa N, Okubo T, Arai T, Imai M, Kosaka H, Naganuma A, Matono T, Aoki T, Kuroda H, Yata Y, Koizumi Y, Nakamura S, Kaibori M, Iijima H, Hiasa Y, Kudo M;Real-life Practice Experts for HCC(RELPEC) Study Group and the Hepatocellular Carcinoma Experts from 48 clinics in Japan(HCC 48) Group. Comparison of prognostic impact of atezolizumab plus bevacizumab versus lenvatinib in patients with intermediate-stage hepatocellular carcinoma. *Liver Int* 44(1). 113-124 (2024. 1)
2. Toyoda H, Kanneganti M, Melendez-Torres J, Parikh ND, Jalal PK, Piñero F, Mendizabal M, Ridruejo E, Cheinquer H, Casadei-Gardini A, Weinmann A, Peck-Radosavljevic M, Dufour JF, Radu P, Shiha G, Soliman R, Sarin SK, Kumar M, Wang JH, Tangkijvanich P, Sukeepaisarnjaroen W, Atsukawa M, Uojima H, Nozaki A, Nakamura M, Takaguchi K, Hiraoka A, Abe H, Matsuura K, Watanabe T, Shimada N, Tsuji K, Ishikawa T, Mikami S, Itobayashi E, Singal AG, Johnson PJ. Regional Differences in Clinical Presentation and Prognosis of Patients With Post-Sustained Virologic Response Hepatocellular Carcinoma. *Clin Gastroenterol Hepatol* 22(1). 72-80 (2024.1)
3. Camera S, Rimini M, Rossari F, Tada T, Suda G, Shimose S, Kudo M, Yoo C, Cheon J, Finkelmeier F, Lim HY, Presa J, Masi G, Bergamo F, Salani F, Marseglia M, Amadeo E, Vitiello F, Kumada T, Sakamoto N, Iwamoto H, Aoki T, Chon HJ, Himmelsbach V, Iavarone M, Cabibbo G, Montes M, Foschi FG, Vivaldi C, Lonardi S, Sho T, Niizeki T, Nishida N,

- Steup C, Hirooka M, Kariyama K, Tani J, Atsukawa M, Takaguchi K, Itobayashi E, Fukunishi S, Tsuji K, Ishikawa T, Tajiri K, Ochi H, Yasuda S, Toyoda H, Ogawa C, Nishimura T, Hatanaka T, Kakizaki S, Shimada N, Kawata K, Hiraoka A, Tada F, Ohama H, Nouse K, Morishita A, Tsutsui A, Nagano T, Itokawa N, Okubo T, Imai M, Kosaka H, Naganuma A, Koizumi Y, Nakamura S, Kaibori M, Iijima H, Hiasa Y, Persano M, Foti S, Piscaglia F, Scartozzi M, Cascinu S, Casadei-Gardini A. Safety and Efficacy of Lenvatinib in Very Old Patients with Unresectable Hepatocellular Carcinoma. *Target Oncol* 19(1). 29-39 (2024.1)
4. Rossari F, Tada T, Suda G, Shimose S, Kudo M, Yoo C, Cheon J, Finkelmeier F, Lim HY, Presa J, Masi G, Bergamo F, Amadeo E, Vitiello F, Kumada T, Sakamoto N, Iwamoto H, Aoki T, Chon HJ, Himmelsbach V, Iavarone M, Cabibbo G, Montes M, Foschi FG, Vivaldi C, Soldà C, Sho T, Niizeki T, Nishida N, Steup C, Hirooka M, Kariyama K, Tani J, Atsukawa M, Takaguchi K, Itobayashi E, Fukunishi S, Tsuji K, Ishikawa T, Tajiri K, Ochi H, Yasuda S, Toyoda H, Ogawa C, Nishimura T, Hatanaka T, Kakizaki S, Shimada N, Kawata K, Hiraoka A, Tada F, Ohama H, Nouse K, Morishita A, Tsutsui A, Nagano T, Itokawa N, Okubo T, Imai M, Kosaka H, Naganuma A, Koizumi Y, Nakamura S, Kaibori M, Iijima H, Hiasa Y, Persano M, Burgio V, Piscaglia F, Scartozzi M, Cascinu S, Casadei-Gardini A, Rimini M. α -FATE:A new predictive score of response to atezolizumab plus bevacizumab for unresectable hepatocellular carcinoma. *Int J Cancer* 154(6). 1043-1056 (2024.3.15)
5. 中村綾花、泉本裕文、北畑翔吾、川村智恵、壺内栄治、平岡淳、二宮朋之。Over-The-Scope-Clip にて閉鎖し得た胃瘻抜去後胃皮膚瘻の一例。愛媛県立病院学会々誌 58. 61-63 (2024.3.31)
6. 村上徳、兼光梢、實藤洋伸、村上大晟、大西慶、泉本裕文、北畑翔吾、川村智恵、黒田太良、多田藤政、宮田英樹、壺内栄治、平岡淳、二宮朋之。Over-The-Scope Clip(OTSC)により止血を得られた難治性大腸憩室出血の 1 例。愛媛県立病院学会々誌 58. 69-72 (2024.3.31)
7. Kariyama K, Nouse K, Hiraoka A, Toyoda H, Tada T, Tsuji K, Ishikawa T, Hatanaka T, Itobayashi E, Takaguchi K, Tsutsui A, Naganuma A, Yasuda S, Kakizaki S, Wakuta A, Shiota S, Kudo M, Kumada T. Treatment options for solitary hepatocellular carcinoma ≤ 5 cm: surgery vs. ablation:a multicenter retrospective study. *J Liver Cancer* 24(1). 71-80 (2024.3)
8. Kitahata S, Michitaka K, Kinebuchi M, Matsuura A, Hiraoka A, Ohama H, Yanagihara E, Saneto H, Izumoto H, Kawamura T, Kuroda T, Tada F, Miyata H, Ninomiya T, Hiasa Y. Renal Cell Carcinoma and Hepatocellular Carcinoma in a Patient with Wilson's Disease. *Intern Med* 63(7). 963-968 (2024.4.1)
9. 平岡淳、多田藤政、中谷康輔。2.肝細胞癌治療の実際 (3)肝動脈化学塞栓術および肝動注化学療法。臨牀消化器内科 39(5). 509-513 (2024.4. 20)
10. Rossari F, Tada T, Suda G, Shimose S, Kudo M, Yoo C, Cheon J, Finkelmeier F, Lim HY, Presa J, Masi G, Bergamo F, Amadeo E, Vitiello F, Kumada T, Sakamoto N, Iwamoto H, Aoki T, Chon HJ, Himmelsbach V, Iavarone M, Cabibbo G, Montes M, Foschi FG, Vivaldi C, Soldà C, Sho T, Niizeki T, Nishida N, Steup C, Hirooka M, Kariyama K, Tani J, Atsukawa M, Takaguchi K, Itobayashi E, Fukunishi S, Tsuji K, Ishikawa T, Tajiri K, Ochi H, Yasuda S, Toyoda H, Ogawa C, Nishimura T, Hatanaka T, Kakizaki S, Shimada N, Kawata K, Hiraoka A, Tada F, Ohama H, Nouse K, Morishita A, Tsutsui A, Nagano T, Itokawa N, Okubo T, Imai M, Kosaka H, Naganuma A, Koizumi Y, Nakamura S, Kaibori M, Iijima H, Hiasa Y, Persano M, Foti S, Camera S, Stefanini B, Scartozzi M, Cascinu S, Casadei-Gardini A, Rimini M. Disease Etiology Impact on Outcomes of Hepatocellular Carcinoma Patients Treated with Atezolizumab plus Bevacizumab:A Real-World,Multicenter Study. *Liver Cancer* 13(5). 522-536 (2024.4)
11. Ohama H, Hiraoka A, Tada T, Hirooka M, Kariyama K, Hatanaka T, Tani J, Takaguchi K, Atsukawa M, Itobayashi E, Nishimura T, Tsuji K, Tajiri K, Ishikawa T, Yasuda S, Toyoda H, Fukunishi S, Ogawa C, Kakizaki S, Shimada N, Naganuma A, Kawata K, Kosaka H, Kuroda H, Matono T, Yata Y, Ochi H, Tada F, Nouse K, Morishita A, Itokawa N, Okubo T, Arai T, Tsutsui A, Nagano T, Yokohama K, Nishikawa H, Imai M, Koizumi Y, Nakamura S, Iijima H, Kaibori M, Hiasa Y, Kumada T;Representing the Real-life Practice Experts for HCC Study Group with Hepatocellular Carcinoma experts from 48 clinics in Japan(RELPEC/HCC 48 Group). Clinical usefulness of newly developed prognostic predictive score for atezolizumab plus bevacizumab for hepatocellular carcinoma. *Cancer Rep(Hoboken)* 7(4). e2042 (2024.4)
12. Ikeda M, Yamashita T, Ogasawara S, Kudo M, Inaba Y, Morimoto M,

- Tsuchiya K, Shimizu S, Kojima Y, Hiraoka A, Nouse K, Aikata H, Numata K, Sato T, Okusaka T, Furuse J. Multicenter Phase II Trial of Lenvatinib plus Hepatic Intra-Arterial Infusion Chemotherapy with Cisplatin for Advanced Hepatocellular Carcinoma:LEOPARD. *Liver Cancer* 13(2). doi:10.1159/000531820.eCollection (2024.4)
13. Hiraoka A, Tada F, Ohama H, Fukumoto M, Matsuoka K, Matsuda T, Nakatani K, Yanagihara E, Saneto H, Izumoto H, Murakami T, Onishi K, Kitahata S, Kanemitsu-Okada K, Kawamura T, Kuroda T, Miyata H, Tsubouchi E, Hirooka M, Abe M, Matsuura B, Ninomiya T, Hiasa Y. Simple Scoring System for Esophagogastric Varices Prediction in Hepatocellular Carcinoma Patients without Liver Stiffness Evaluation. *Oncology* 102(4). 291-298 (2024.4)
14. Hatanaka T, Kakizaki S, Hiraoka A, Tada T, Hirooka M, Kariyama K, Tani J, Atsukawa M, Takaguchi K, Itobayashi E, Fukunishi S, Tsuji K, Ishikawa T, Tajiri K, Ochi H, Yasuda S, Toyoda H, Ogawa C, Yokohama K, Nishikawa H, Nishimura T, Shimada N, Kawata K, Kosaka H, Naganuma A, Yata Y, Ohama H, Kuroda H, Aoki T, Tanaka K, Tanaka T, Tada F, Nouse K, Morishita A, Tsutsui A, Nagano T, Itokawa N, Okubo T, Arai T, Imai M, Koizumi Y, Nakamura S, Kaibori M, Iijima H, Hiasa Y, Kudo M, Kumada T;Real-life Practice Experts for HCC(RELPEC) Study Group, and HCC 48 Group(hepatocellular carcinoma experts from 48 clinics in Japan). Comparative analysis of the therapeutic outcomes of atezolizumab plus bevacizumab and lenvatinib for hepatocellular carcinoma patients aged 80 years and older:Multicenter study. *Hepatol Res* 54(4). 382-391 (2024.4)
15. 北翔翔吾, 泉本裕文, 川村智恵, 松岡順子, 須賀義文, 實藤洋伸, 黒田太良, 多田藤政, 宮田英樹, 二宮朋之. 大腸 EMR 後出血における止血困難例に対し, 吸収性局所止血剤の併用が有用であった 1 例. *日本消化器内視鏡学会雑誌* 66(4). 417-421 (2024.4)
16. Utsunomiya T, Watanabe J, Tokuda K, Ueno Y, Hanaoka J, Yagi S, Tada F, Hiraoka A, Ninomiya T, Ohtani H. C-reactive Protein-to-Albumin Ratio:A Useful Predictor for Biliary Fistula After Hepatectomy. *Cureus* 16(5). e60735 (2024.5.21)
17. Toyoda H, Tada T, Uojima H, Nozaki A, Chuma M, Takaguchi K, Hiraoka A, Abe H, Itobayashi E, Matsuura K, Atsukawa M, Watanabe T, Shimada N, Nakamuta M, Kojima M, Tsuji K, Mikami S, Ishikawa T, Yasuda S, Tsutsui A, Arai T, Kumada T, Tanaka Y, Tanaka J, Chayama K. Comparison of six hepatocellular carcinoma prediction models in Japanese patients after sustained virologic response undergoing rigorous surveillance for hepatocellular carcinoma. *J Gastroenterol Hepatol* 39(5). 949-954 (2024. 5)
18. Rimini M, Stefanini B, Tada T, Suda G, Shimose S, Kudo M, Finkelmeier F, Yoo C, Presa J, Amadeo E, Genovesi V, De Grandis MC, Iavarone M, Marra F, Foschi F, Tamburini E, Rossari F, Vitiello F, Bartalini L, Soldà C, Tovoli F, Vivaldi C, Lonardi S, Silletta M, Kumada T, Sakamoto N, Iwamoto H, Aoki T, Himmelsbach V, Montes M, Hiraoka A, Sho T, Niizeki T, Nishida N, Steup C, Hirooka M, Kariyama K, Tani J, Atsukawa M, Takaguchi K, Itobayashi E, Fukunishi S, Tsuji K, Ishikawa T, Tajiri K, Ochi H, Yasuda S, Toyoda H, Ogawa C, Nishimura T, Hatanaka T, Kakizaki S, Shimada N, Kawata K, Tada F, Ohama H, Nouse K, Morishita A, Tsutsui A, Nagano T, Itokawa N, Okubo T, Arai T, Imai M, Kosaka H, Naganuma A, Koizumi Y, Nakamura S, Kaibori M, Iijima H, Hiasa Y, Persano M, Camera S, Foti S, Aldrighetti L, Cascinu S, Casadei-Gardini A, Piscaglia F. Impact of body mass index on the prognosis of unresectable HCC patients receiving first-line Lenvatinib or atezolizumab plus bevacizumab. *Liver Int* 44(5). 1108-1125 (2024.5)
19. Tada T, Kumada T, Hiraoka A, Kariyama K, Yasuda S, Tada F, Ohama H, Nouse K, Matono T, Nakamura S, Toyoda H;Real-life Practice Experts for HCC(RELPEC) Study Group. mADRES predicts hepatocellular carcinoma development in patients with hepatitis C virus who achieved sustained virological response. *J Gastroenterol Hepatol* 39(6). 1164-1171 (2024.6)
20. 平岡淳. 5 薬物療法開始前のスクリーニング～肝機能, 静脈瘤, 自己免疫疾患, 心疾患～. もう迷わない! 肝臓薬物療法ナビ. 56-60 (2024.6)
21. 平岡淳. 肝細胞癌に対するラジオ波治療で免疫アジュバント治療をすべき症例の臨床像. *肝胆膵* 89(1). 132-133 (2024.7.28)
22. Tada T, Kumada T, Hiraoka A, Hirooka M, Kariyama K, Tani J, Atsukawa M, Takaguchi K, Itobayashi E, Fukunishi S, Nishikawa H, Tsuji K, Ishikawa T, Tajiri K, Koshiyama Y, Toyoda H, Ogawa C, Hatanaka T, Kakizaki S, Kawata K, Ohama H, Tada F, Nouse K, Morishita A, Tsutsui A, Nagano T, Itokawa N, Okubo T, Arai T, Nishimura T, Imai M, Kosaka H, Naganuma A, Matono T, Aoki T, Kuroda H, Yata Y, Koizumi Y, Nakamura S, Enomoto H, Kaibori M, Hiasa Y, Kudo M;Real-life Practice Experts for HCC(RELPEC) Study Group;Hepatocellular Carcinoma Experts from 48 clinics in Japan(HCC 48) Group. Outcomes of patients with hepatocellular carcinoma treated with atezolizumab plus bevacizumab in real-world clinical practice who met or did not meet the inclusion criteria for the phase 3 IMbrave150 trial. *Aliment Pharmacol Ther* 60(2). 233-245 (2024.7)
23. Ohama H, Hiraoka A, Tada T, Kariyama K, Itobayashi E, Tsuji K, Ishikawa T, Toyoda H, Hatanaka T, Kakizaki S, Naganuma A, Tada F, Tanaka H, Nakamura S, Nouse K, Tanaka K, Kumada T;Real-life Practice Experts for HCC(RELPEC) Study Group and HCC 48 Group(hepatocellular carcinoma experts from 48 clinics in Japan). Changes in clinical outcomes in Japanese patients with hepatocellular carcinoma due to hepatitis C virus following the development of direct-acting antiviral agents. *J Gastroenterol Hepatol* 39(7). 1394-1402 (2024.7)
24. Persano M, Rimini M, Tada T, Suda G, Shimose S, Kudo M, Rossari F, Yoo C, Cheon J, Finkelmeier F, Lim HY, Presa J, Masi G, Bergamo F, Amadeo E, Vitiello F, Kumada T, Sakamoto N, Iwamoto H, Aoki T, Chon HJ, Himmelsbach V, Iavarone MA, Cabibbo G, Montes M, Foschi FG, Vivaldi C, Soldà C, Sho T, Niizeki T, Nishida N, Steup C, Bruccoleri M, Hirooka M, Kariyama K, Tani J, Atsukawa M, Takaguchi K, Itobayashi E, Fukunishi S, Tsuji K, Ishikawa T, Tajiri K, Ochi H, Yasuda S, Toyoda H, Ogawa C, Nishimura T, Hatanaka T, Kakizaki S, Shimada N, Kawata K, Hiraoka A, Tada F, Ohama H, Nouse K, Morishita A, Tsutsui A, Nagano T, Itokawa N, Okubo T, Imai M, Kosaka H, Naganuma A, Koizumi Y, Nakamura S, Kaibori M, Iijima H, Hiasa Y, Foti S, Camera S, Piscaglia F, Scartozzi M, Cascinu S, Casadei-Gardini A. Adverse Events as Potential Predictive Factors of Activity in Patients with Advanced HCC Treated with Atezolizumab Plus Bevacizumab. *Target Oncol* 19(4). 645-659 (2024.7)
25. Hatanaka T, Saito N, Kakizaki S, Hiraoka A, Tada T, Kariyama K, Tani J, Takaguchi K, Itobayashi E, Ishikawa T, Toyoda H, Kawata K, Naganuma A, Yata Y, Ohama H, Matono T, Tada F, Nouse K, Morishita A, Tsutsui A, Nagano T, Nakamura S, Kumada T;Real-life Practice Experts for HCC (RELPEC) Study Group. Factors Affecting an Increase in Spleen Volume and Association of Spleen Volume Variation with the Clinical Outcomes of Atezolizumab and Bevacizumab Treatment for Hepatocellular Carcinoma:A Retrospective Analysis. *Oncology*. doi:10.1159/000541002 (2024.8.20)
26. Rimini M, Montes M, Amadeo E, Vitiello F, Kudo M, Tada T, Suda G, Shimose S, Lonardi S, Finkelmeier F, Salani F, Antonuzzo L, Marra F, Iavarone M, Cabibbo G, Foschi FG, Silletta M, Sacco R, Rapposelli IG, Scartozzi M, Nicoletta P, Aldrighetti L, Persano M, Camera S, Rossari F, Foti S, Kumada T, Hiraoka A, Iwamoto H, Rizzato MD, Himmelsbach V, Masi G, Corradi M, Celsa C, Fabio C, Frassinetti GL, Cascinu S, Casadei-Gardini A, Presa J. Impact of metformin, statin, aspirin and insulin on the prognosis of uHCC patients receiving first line Lenvatinib or Atezolizumab plus Bevacizumab. *Sci Rep* 14(1). 20200 (2024.8.30)
27. Fukunishi Y, Hiraoka A, Tada F, Fukumoto M, Matsuda T, Matsuoka K, Nakatani K, Yanagihara E, Saneto H, Izumoto H, Murakami T, Onishi K, Kitahata S, Kanemitsu-Okada K, Kawamura T, Kuroda T, Miyata H, Tsubouchi E, Hanaoka J, Watanabe J, Ohtani H, Yoshida O, Hirooka M, Abe M, Matsuura B, Ninomiya T, Hiasa Y. Changes in characteristics of gastroenterology center inpatients in Japan because of rapidly aging society. *J Gastroenterol Hepatol* 39(8). 1528-1534 (2024.8)
28. Atsukawa M, Tsubota A, Kondo C, Toyoda H, Takaguchi K, Nakamuta M, Watanabe T, Morishita A, Tani J, Okubo H, Hiraoka A, Nozaki A, Chuma M, Kawata K, Uojima H, Ogawa C, Asano T, Mikami S, Kato K, Matsuura K, Ikegami T, Ishikawa T, Tsuji K, Tada T, Tsutsui A, Senoh T, Kitamura M, Okubo T, Arai T, Kohjima M, Morita K, Akahane T, Nishikawa H, Iwasa M, Tanaka Y, Iwakiri K. ALBI score predicts morphological changes in esophageal varices following direct-acting antiviral- induced sustained virological response in patients with liver cirrhosis. *J Gastroenterol* 59(8). 709-718 (2024.8)
29. 中谷康輔, 多田藤政, 平岡淳, 柳原映美, 二宮朋之. 全身薬物療法時代の尿蛋白評価 Atezolizumab+Bevacizumab 治療における尿蛋白/クレアチニン比測定の重要性. *愛媛医学* 43(3). 131-136 (2024.9.1)
30. Chuma M, Uojima H, Toyoda H, Hiraoka A, Arase Y, Atsukawa M, Ito-kawa N, Okubo T, Tada T, Numata K, Morimoto M, Sugimori M, Nozaki A, Iwasaki S, Yasuda S, Koshiyama Y, Mishima Y, Tsuruya K, Tokoro C, Miura Y, Hidaka H, Kumada T, Kusano C, Kagawa T, Maeda S. Clinical significance of circulating biomarkers of immune-checkpoint molecules with atezolizumab plus bevacizumab therapy in unresectable hepatocellular

- carcinoma. *Hepatol Int* 18(5). 1472-1485 (2024.10)
31. Tada F, Hiraoka A, Nakatani K, Matsuoka K, Fukumoto M, Matsuda T, Yanagihara E, Saneto H, Murakami T, Onishi K, Izumoto H, Kitahata S, Kanemitsu-Okada K, Kawamura T, Kuroda T, Hanaoka J, Watanabe J, Ohtani H, Yoshida O, Hirooka M, Miyata H, Tsubouchi E, Abe M, Matsuura B, Ninomiya T, Hiasa Y. Clinical features of patients with hepatocellular carcinoma treated with radiofrequency ablation therapy:developing a simple score to determine the need for immune-adjuvant therapy. *Clin J Gastroenterol* 17(5). 999-1000 (2024.10)
32. Hirano Y, Nouse K, Kariyama K, Hiraoka A, Shiota S, Wakuta A, Yasuda S, Toyoda H, Tsuji K, Hatanaka T, Kakizaki S, Naganuma A, Tada T, Itobayashi E, Ishikawa T, Shimada N, Takaguchi K, Tsutsui A, Nagano T, Imai M, Nakamura S, Kumada T;Real-Life Practice Experts for HCC (RELPEC) Study Group in Japan. Prognostic Efficacy of the Albumin Grade in Patients with Hepatocellular Carcinoma. *Acta Med Okayama* 78(5). 377-386 (2024.10)
33. Shogo Kitahata, Shinya Furukawa, Teruki Miyake, Osamu Yoshida, Kana Shiraiishi, Yu Hashimoto, Kazuhiro Tange, Yagi Sen, Masakazu Hanayama, Tomoyuki Ninomiya, Seiyuu Suzuki, Naozumi Shibata, Hidehiro Murakami, Katsuhisa Ohashi, Hideomi Tomida, Yasunori Yamamoto, Eiji Takeshita, Yoshio Ikeda, Yoichi Hiasa. Association between nighttime urinary frequency and clinical outcomes in Japanese patients with ulcerative colitis. *Neurourology Urology* 43(8). 2222-2228 (2024.11)
34. Itokawa N, Atsukawa M, Tsubota A, Ishikawa T, Toyoda H, Takaguchi K, Watanabe T, Ogawa C, Hiraoka A, Okubo H, Uojima H, Chuma M, Nozaki A, Kato K, Mikami S, Tani J, Morishita A, Tada T, Asano T, Senoh T, Oikawa T, Okubo T, Kumada T, Iwakiri K. Kinetics of the hepatitis B core-related antigen and treatment responses in chronic hepatitis B patients treated with tenofovir alafenamide. *Hepatol Res* 54(11). 993-1003 (2024.11)
35. Hatanaka T, Kakizaki S, Hiraoka A, Tada T, Kumada T. Editorial:Predictive Factors and Survival Outcome of Conversion Therapy for Unresectable Hepatocellular Carcinoma Patients Receiving Atezolizumab and Bevacizumab:Comparative Analysis of Conversion,Partial Response and Complete Response Patients. Authors' Reply. *Aliment Pharmacol Ther* 60(10). 1469-1470 (2024.11)
36. Hatanaka T, Kakizaki S, Hiraoka A, Tada T, Hirooka M, Kariyama K, Tani J, Atsukawa M, Takaguchi K, Itobayashi E, Fukunishi S, Tsuji K, Ishikawa T, Tajiri K, Toyoda H, Ogawa C, Nishikawa H, Nishimura T, Kawata K, Kosaka H, Naganuma A, Yata Y, Ohama H, Kuroda H, Matono T, Aoki T, Kanayama Y, Tanaka K, Tada F, Nouse K, Morishita A, Tsutsui A, Nagano T, Itokawa N, Okubo T, Arai T, Imai M, Nakamura S, Enomoto H, Kaibori M, Hiasa Y, Kudo M, Kumada T; Real-life Practice Experts for, HCC(RELPEC) Study Group, and, HCC 48 Group(Hepatocellular Carcinoma Experts from 48 Clinics in Japan). Predictive factors and survival outcome of conversion therapy for unresectable hepatocellular carcinoma patients receiving atezolizumab and bevacizumab: Comparative analysis of conversion, partial response and complete response patients. *Aliment Pharmacol Ther* 60(10). 1361-1373 (2024.11)
37. Hara N, Hiraoka A, Nakai M, Shiraki M, Namisaki T, Miyaaki H, Hisanaga T, Takahashi H, Ohama H, Tada F, Sakamoto N, Nakao K, Takami T, Eguchi Y, Yoshiji H. Brief intervention for chronic liver disease patients with alcohol use disorder in a hepatology outpatient unit: Effects and limitations. *Hepatol Res* 54(11). 1099-1105 (2024.11)
38. Miyamoto H, Kondo Y, Itobayashi E, Uehara M, Hiraoka A, Kudo M, Kakizaki S, Kagawa T, Miura S, Suzuki T, Sugi K, Suyama K, Beppu T, Toyoda H, Yoshiji H, Uojima H, Miyase S, Inoue K, Tamori A, Ito T, Shimose S, Suda G, Hayashi T, Onishi M, Narahara S, Watanabe T, Iwatsuki M, Fukushima S, Tanaka Y. Evaluation of the associations of interleukin-7 genetic variants with toxicity and efficacy of immune checkpoint inhibitors:A replication study of a Japanese population, based on the findings of a European genome-wide association study. *Hepatol Res* 54(12). 1215-1225 (2024.12)
39. Hatanaka T, Hiraoka A, Tada T, Kakizaki S. Letter regarding Impact of Bevacizumab Being Skipped due to Adverse Events of Special Interest for Bevacizumab in Patients with Unresectable Hepatocellular Carcinoma Treated with Atezolizumab plus Bevacizumab:An Exploratory Analysis of the Phase III IMbrave150 Study. *Liver Cancer* 13(6). 669-670 (2024.12)
40. Kuroda T, Miyata H, Kimura Y, Nakamura A, Matsuda T, Matsuoka K, Fukumoto M, Murakawa K, Murakami T, Izumoto H, Onishi K, Kitahata S, Kanemitsu-Okada K, Kawamura T, Tada F, Tsubouchi E, Hanaoka J, Hiraoka A, Ninomiya T. Malignant biliary obstruction treated with preoperative endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy:A case report. *Int J Gastrointest Interv* 13. 1-4 (2024)
- Iavarone M, Alimenti E, Tada T, Shimose S, Suda G, Yoo C, Soldà C, Piscaglia F, Tosetti G, Marra F, Vivaldi C, Conti F, Schirripa M, Iwamoto H, Sho T, Lee SH, Rizzato MD, Tonnini M, Rimini M, Campani C, Masi G, Foschi F, Bruccoleri M, Kawaguchi T, Kumada T, Hiraoka A, Atsukawa M, Fukunishi S, Ishikawa T, Tajiri K, Ochi H, Yasuda S, Toyoda H, Hatanaka T, Kakizaki S, Kawata K, Tada F, Ohama H, Itokawa N, Okubo T, Arai T, Imai M, Naganuma A, Casadei-Gardini A, Lampertico P. Incidence and Predictors of Esophagogastric Varices Bleeding in Patients with Hepatocellular Carcinoma in Lenvatinib. *Liver Cancer* 13(2). 215-226 (2024)
41. Kobayashi K, Ogasawara S, Itobayashi E, Okubo T, Itokawa N, Nakamura K, Moriguchi M, Watanabe S, Ikeda M, Kuroda H, Kawaoka T, Hiraoka A, Yasui Y, Kuzuya T, Sato R, Kanzaki H, Koroki K, Inoue M, Nakamura M, Kiyono S, Kanogawa N, Kondo T, Nakamoto S, Ozawa Y, Tsuchiya K, Atsukawa M, Aikata H, Aramaki T, Oka S, Morimoto N, Kurosaki M, Itoh Y, Izumi N, Kato N. Ramucirumab for advanced hepatocellular carcinoma in the current real world:a Japanese single-arm study post-REACH-2(The R-evolution study). *Invest New Drugs* 42. 394-404 (2024)
42. Iavarone M, Alimenti E, Tada T, Shimose S, Suda G, Yoo C, Soldà C, Piscaglia F, Tosetti G, Marra F, Vivaldi C, Conti F, Schirripa M, Iwamoto H, Sho T, Lee SH, Rizzato MD, Tonnini M, Rimini M, Campani C, Masi G, Foschi F, Bruccoleri M, Kawaguchi T, Kumada T, Hiraoka A, Atsukawa M, Fukunishi S, Ishikawa T, Tajiri K, Ochi H, Yasuda S, Toyoda H, Hatanaka T, Kakizaki S, Kawata K, Tada F, Ohama H, Itokawa N, Okubo T, Arai T, Imai M, Naganuma A, Casadei-Gardini A, Lampertico P. Incidence and Predictors of Esophagogastric Varices Bleeding in Patients with Hepatocellular Carcinoma in Lenvatinib. *Liver Cancer* 13(2). 215-226 (2024)